

草津市立矢倉小学校通信 平成30年4月27日 NO.2



やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

若葉の季節、意気込みの感じられる新学年、新学期

校庭の木々の新芽も、いよいよ緑の度を増し、すがすがしい季節となった。新しい教室で、新しいなかまと始まった新学年、新学期。教室のようすはどんなだろうと、校舎内を見て回った。朝は、まず今月の歌「春はワクワク」を元気よく、楽しく歌う声が、それぞれの教室から聞こえてくる。ああ、なんとさわやかに響いているものだと感じながら、歩を進めていくと、6年生の教室廊下に、身近な生活用具や文房具などのスケッチ画が掲示されていた。そこには、ことばが添えられていた。

えんぴつのスケッチ画には

「いろんな文字と一緒に書いてくれてありがとう。」

黄色の通学帽のスケッチ画には

「一年生のときからずっとお世話になりました。あと一年、よろしく！」

ふでばこのスケッチ画には

「私を買ってもらったときは、色が真っ白で清潔な筆箱だった。

けど、今はちがう。

たくさん使ってもらったから、少しよごれがついた。

でも、たくさん使ってもらっているから、私はがんばれる。」

このようにどの小作品にも、作者である子ども一人ひとりの抱いた「ありがとう」の気持ちが、ことばに託され、書きとめられていた。普段は、あつてあたりまえ、使えてあたりまえなどと、その存在さえも見過ごしてしまうようなことに、改めて心を向ける、そんな大切なことができている。きっとこの教室では、こうした学習活動から、小さなこと、目に見えないようなことにも、心をはたらかせ、大切なことを学んでいくことができるのだろうと思えてきた。こうした活動を大切にしてくださっている先生方もすばらしいし、そのよさに気づき、しっかりと応えられている子どもたちも、それ以上にすばらしい……。

こんなことに思いを巡らせながらさらに歩を進めると、他の学年の教室からは、こちらをチラリ、チラリと見るまなざしに気づく。目と目があうと、やおら真面目にノートに向き直り、真剣に何ごとかを書き込んだり、教科書に見入ったりするのである。

4月のこの時期だからこそ、どの教室からも発せられる子どもたちと先生方の意気込み、心と心の響き合いを大切にしたい。

校長 大林 道範